

**筑波山へようこそ!**

筑波山ケーブルカー・ロープウェイ  
029-866-0611

# すそみろく

筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました

第2号(平成19年2月2日) 発行・すそみろく編集委員会 TEL029-863-5151(NPO法人つくば環境フォーラム内)

昭和8年生れの杉田さんは、数年前までは現役でした。木の魅力に次第に引かれ、巨木を切る空師の仕事もするようになり、作業場にはいまも、チェーンソーが何台も。両腕を広げたより大きなものも一人で扱ったこととです。

昭和8年生れの杉田さんは、数年前までは現役でした。木の魅力に次第に引かれ、巨木を切る空師の仕事もするようになり、作業場にはいまも、チェーンソーが何台も。両腕を広げたより大きなものも一人で扱ったこととです。



木を切る名人として知られる元山・杉田房雄さん(臼井)は、山に入り、木を切る職人のこと。筑波山麓には古くから農を営みながら、冬場に山で木を切り出す元山が多くいました。杉田房雄さんが、元山の仕事を始めたのは18歳。「そのころは山と関わっていた人が多かったから、自然に木を切る仕事に就きましたよ。」

「チェーンソーになったのは30年くらい前。それまでは手で引くのこぎりです。」

作業場の壁には、記念のこぎりが飾られています。目立てといつて、のこぎりの刃も自分で研いだそつです。

木を切る前に、まず塩とお神酒で浄めます。そして、木の太さや高さ、枝ぶりなど見て、何回に分け、どの方向に倒すかなどを決めてから切り始めます。木に登るときはカンジキという爪を足に付け、胴綱と呼ぶ命綱で木と体をつなぎ、作業します。

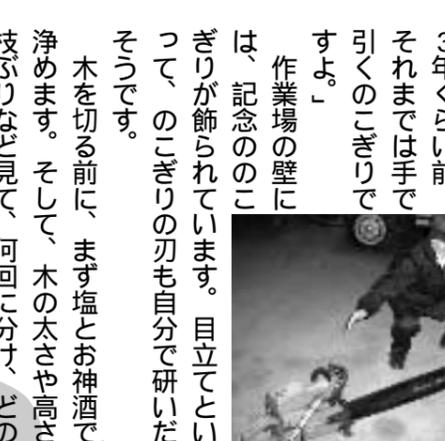
巨木を切るときは、後で建築材として使うため、倒すときに傷つかないうち慎重に切ります。ロープで木を結わえ、木を倒す方向に「受け口」という切り込みを入れ、反対側から少しずつ切っていく、ロープでたぐりながら、倒す方向に木を向けていく。その微妙な加減は、長年の経験

「チェーンソーになったのは30年くらい前。それまでは手で引くのこぎりです。」

作業場の壁には、記念のこぎりが飾られています。目立てといつて、のこぎりの刃も自分で研いだそつです。

木を切る前に、まず塩とお神酒で浄めます。そして、木の太さや高さ、枝ぶりなど見て、何回に分け、どの方向に倒すかなどを決めてから切り始めます。木に登るときはカンジキという爪を足に付け、胴綱と呼ぶ命綱で木と体をつなぎ、作業します。

巨木を切るときは、後で建築材として使うため、倒すときに傷つかないうち慎重に切ります。ロープで木を結わえ、木を倒す方向に「受け口」という切り込みを入れ、反対側から少しずつ切っていく、ロープでたぐりながら、倒す方向に木を向けていく。その微妙な加減は、長年の経験



「チェーンソーになったのは30年くらい前。それまでは手で引くのこぎりです。」

作業場の壁には、記念のこぎりが飾られています。目立てといつて、のこぎりの刃も自分で研いだそつです。

木を切る前に、まず塩とお神酒で浄めます。そして、木の太さや高さ、枝ぶりなど見て、何回に分け、どの方向に倒すかなどを決めてから切り始めます。木に登るときはカンジキという爪を足に付け、胴綱と呼ぶ命綱で木と体をつなぎ、作業します。

巨木を切るときは、後で建築材として使うため、倒すときに傷つかないうち慎重に切ります。ロープで木を結わえ、木を倒す方向に「受け口」という切り込みを入れ、反対側から少しずつ切っていく、ロープでたぐりながら、倒す方向に木を向けていく。その微妙な加減は、長年の経験



田井小の炭焼き職人たちです

田井小の炭焼き職人たちです

田井小の炭焼き職人たちです

### セリのキッシュ

材料(22cmのタルト型1個分)  
セリ 1束(40g位)  
えび(大きめのもの) 1尾  
プチトマト 10個  
冷凍パイシート 2枚 バター 100%のもの  
ゴーダーチーズ 35g  
エメンタルチーズ 35g  
卵液(卵1個、牛乳100cc 生クリーム100cc 薄力粉20g 塩こしょう少々)

作り方  
パイシートは自然解凍し、タルト型よりひとまわり大きめに伸ばして、型に敷き込んでおきます。余分な生地は切り落としておきます。  
えびは背わたを取り、殻をむいて白ワイン大さじ1をかけ、塩、こしょうを少々ふりかけておきます。大きいものは半分に切っておきます。  
セリは洗って3cm位に切っておきます。チーズはすりおろして合わせておきます。ボールに卵を割りほぐし、生クリーム、牛乳、粉、調味料を加えて混ぜます。パイ生地を敷いた型にえび、セリ、プチトマトをのせ、チーズを広げて、上から卵液を流し込みます。  
230度のオーブンで10分焼いた後、200度で20分焼き上げます。

地元で採れる食材を、今までとはちよつと違った角度から見直してみましよう。今回は今が旬の「セリ」です。

春の七草の筆頭にあげられているセリは、「枕草子」や「万葉集」にも、野のセリを摘んで愛する人に贈るといふ話や歌が載せられています。今もお正月の七草がゆに入れたり、

### すそみ点滅交差点

春の香りを楽しむセリのキッシュ



おひたしや和え物など、春の香りを楽しむ野草として親しまれています。今回は、ふもとを流れる小川で、15cmほどに伸びたセリを摘んで、キッシュを焼いてみました。キッシュはもともとフランスで生れた焼菓子ですが、中に入れる具を工夫すると、ワインやビールにもよく合うおもてなし料理になります。焼きたてを切り分け、セリの香りと歯ざわりを楽しみながら、野の味をたっぷりといただきますよ。

編集を終えて.....  
かつては人々の暮らしにもあった筑波山麓の森林も様変わりしています。「すそみ」の豊かな自然、美しい景観、歴史や文化を伝え守り育てるために、「すそみろく」を編集しています。まだまだ知らない「すそみ」の魅力がいっぱい! 皆様の情報やご意見、ご感想を編集部にお寄せ下さい。

もちまきの様子



### すそみ スケッチ

茅葺きを祝う「くしまつり」  
「茅葺きなんて珍しいねえ」「昔はこうやってやっただけなだけなあ」といふような声。大きなかご袋を手に持ち、近所の人が集まってきた。六所の空き家となった古民家は、ここに惚れ込んだ都市住民を迎え、今よみがえるつとして。空がぼつかり見えていた茅葺き屋根は、筑波茅手によって葺き替えられ、その完成を祝い、くしまつりが行われた。

里山建築研究所 上野弥智代

つくば市小沢	小沢区長	石田助一郎
つくば市神郡	神郡区長	櫻井誠
つくば市神郡		飯田一男
つくば市神郡		石井博子
つくば市神郡	肥田酒店	肥田久子
つくば市白井	白井区長	鮎川勇一
つくば市白井	前白井区長	鮎川勇一
つくば市白井	立野区長	鮎川清
つくば市白井		菊地つよい
つくば市白井	森の文化草木染伝承者	
つくば市白井		筑波ふれあいの里
つくば市筑波		齋藤靖夫
つくば市西根	筑波大学教授	出口正義
つくば市西根		
他2名の方から	協賛をいただいています。	
協賛会員「すそみサポーター」募集!	一口30000円	

「郷土の先達とゆく筑波山」結エディット

デザイン: 小沢陽子(漆所地区)

私たちが応援しています!

蘇る炭焼きの情熱

NPO法人自然生クラブ 柳瀬敬  
かつて戦時中、松根油や木質バイオマスでゼロ戦を飛ばそうとした人がいた。日本炭焼きの会の杉浦銀二先生もその一人だ。  
戦後、炭焼きは燃料革命で衰退し、その技術も消えようとしたが、70年代、環境運動から炭が見直された。いまや杉浦先生は日本国中、いや世界中をとびまわり炭焼きを伝授している。戦争のためではなく、地球の環境を守るために情熱をかたむける。筑波山麓の薪炭林は、炭焼きにとって宝の山である。自然生クラブに



炭焼きする自然生クラブの人たち

\*ホームページ <http://www17.ocn.ne.jp/~jinenjo/>

は杉浦先生の指導の下、ボランテニアの若者たちと作りあげた白炭の窯がある。「二十一世紀窯」と名づけられた窯に今年も火が入った。十日間連続して炭が焼かれる。生命現象でできた有機体が炭素に還元される。燃えれば二酸化炭素として大気中に放出される。炭になれば、炭素は母なる大地に戻っていく。  
筑波ふれあいの里の炭焼き講座  
筑波山麓自然学校の大人対象講座として、炭焼きが行われました。つくば市の施設である筑波ふれあいの里（白井地区）では、年間を通して、自然や里山のくらしを学ぶ講座があります。宿泊棟コテージ、キャンプ場、染色・そば打ち施設があり、筑波山の自然の中でゆったりと過ごせます。  
\*お問い合わせ 029-866-1519

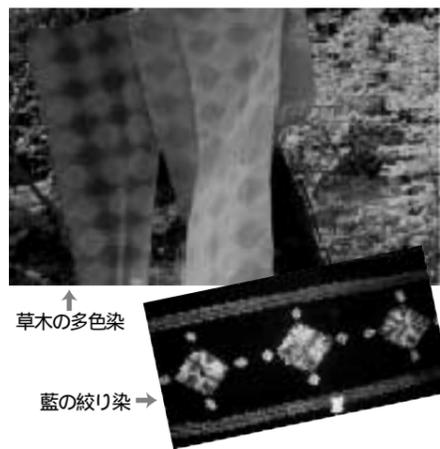


ドラマ缶窯から竹炭を取り出す

草木染を楽しむ

紫の会会員 菊地つよい(白井地区)

紫の会は、筑波ふれあいの里の染色棟で、月1回ずつ草木染をしている仲間である。主に筑波山周辺に自生する植物を使



草木の多色染

藍の絞り染

って染めている。ウメ、サクラ、ヨモギ、アワダチソウとつぎつぎに季節を追うように染めていく。スタートは平成12年7月。現在は仲間が増えて、4グループがある。このほかに紫の会の産みの親である「藍ふたあいの会」がある。  
最近、草木染では難しい茜染めに日本茜草を用いて挑戦をはじめた。山が荒れ、畦の野草は除草剤で姿を消し、日本茜草の採集は難しい。半日に50g採るのがせいぜいの日もある。わずかに集めた茜草でスカーフを染め、樺の生葉を燃やした灰汁で媒染をした。夕焼け空のあの茜色、東雲しのめめに輝く暁の色が、釜の中に揺らめいた。

あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る (額田王) あかねさす日は照らせれどぬばたまの夜渡る月の隠らく惜しも (柿本人麻呂)

春を寿ぐ神事



豊作を祈願する「初午祭」

杉ノ木稲荷神社  
去る2月5日、杉ノ木の稲荷神社で初午祭が行われました。稲荷神社は、小高い山の上にあり、午前10時半ごろ杉ノ木地区の方たちが集い、鏡餅、野菜、お神酒などの供え物をもって、お詣りしました。参道には「正一位稲荷大明神」の幟が立ち、早くも梅の花がほころび、春到来を感じさせました。

杉ノ木稲荷神社は、第二次世界大戦以前は、石嶋忠重氏宅が個人で祀る神社でした。忠重氏の先祖、石嶋駿河守は戦国時代に小田氏配下であり、小田氏が滅んだ折に帰農。忠重氏によれば、「その時に稲荷神社を祀ったのでは」とのこと。稲荷神社のほか、杉ノ木の田んぼのなかに、かつては雷宮を祀る塚があり、松が目印になっていたそうです。

(取材・編集部)



幟の立つ参道

初午のお供え

弁財天の「福来御種銭」  
飯名神社総代 鮎川隆雄  
「白井の弁天様」で親しまれる飯名神社。旧暦正月の初巳に行われる例祭が、本年は2月28日。この弁天様の祭事は、一風変わっている。初めてお参りする方は、種銭と称する「福来御種銭」を借り受け、御守りと一緒に自分の財布に入れておく、財を成すという。



飯名神社の福来御種銭

最初5円とか50円等任意の金額を社務所に申し出て、神社からその金額の種銭と「福来御種御守」を頂く。それを一年間自分の財布に入れておき、翌年の祭事の時、借り受けた種銭額の「倍の金額」を奉納し、その奉納額と同額を種銭として頂き、年々倍の額に増加するという(最高額500円)。神との信頼関係で成り立つ神事である。祭は早朝から日没まで。



2.3月

すそみ歳事記

お話し 櫻井誠さん

聞き手 里山建築研究所 居島 上野

3日 節分  
大豆の茎に差した鰯の頭、ヒイラギを一組にして用意し、玄関や倉庫の入り口に差す。鬼が来ないように炒った豆を保管しておいて、夏の初雷の時に雷除けとして食べる。  
5日 初午  
スミツカリと赤飯(炊きおこわ)を稲ワラに入れて祠の屋根に上げ、お稲荷様をお祀りする。  
8日 スミツカリ(大根人参を鬼おろしでおろし、年越し用のいり豆、油揚げなどを酢、砂糖・醤油で調理する。)

3日 3月 節句(節供)  
こと八日(笹神様のお祭り)長い竹の棒を屋敷の屋根に立てかけて、逆さにした目籠をのせ、邪気を祓ふ。12月8日にも行われる。



絵：櫻田万里(田井小学校5年)

18~24日 彼岸(至彼岸)七日間のうち、農休日には中日の一日だけ、「春の彼岸で夜なべ(夜業)明け」

木を切って森づくり  
NPO法人つくば環境フォーラム  
里山の林は利用されなくなっても荒れています。つくば環境フォーラムでは、この冬、筑波山麓で3回の森づくり実践セミナーを行いました。  
第1回は大きくなりすぎた雑木林の伐採。クヌギやコナラなどの雑木は、15~20年ごとに切って炭や薪に使つことで、切り株から再生し、林が若返って動植物も多様になるのですが、今では多くの林が放置されています。  
第2回はヒノキ林の間伐。間伐は、木を抜き切りし林の健全な成長を助ける手入れで、間伐しないと傾斜地では土砂崩れの危険もありませんが、経済性が失われた今、手入れが不足しています。  
第3回は切った雑木を活用した、シイタケやナメコの菌の植え付け。里山を活用するアイデアも話し合いました。3月にはドラム缶で窯を作つて炭焼きもします。森づくりの活動、一緒にいかがですか? (029-866-1519)



雑木の伐採風景

\*ホームページ <http://www12.ocn.ne.jp/~tef298/>

春の筑波は、梅と、いい宿...

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| 筑波温泉ホテル<br>029-866-0521 | 筑波山ホテル青木屋<br>029-866-0311  |
| 筑波山江戸屋<br>029-866-0321  | つくばグランドホテル<br>029-866-1111 |
| 彩香の宿一望<br>029-866-2222  | 筑波山京成ホテル<br>029-866-0831   |

筑波山旅館組合青年部 <http://www.tsukubasan.com/>